

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	建築計画 I	
科目基礎情報						
科目番号	0056	科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建設システム工学科	対象学年	4			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	岡田光政 (ほか『建築計画 I』鹿島出版会)					
担当教員	尾上 亮介					
到達目標						
①. 空間形態の理解 ②. 知覚現象の理解 ③. 寸法と規模の計画を理解 ④. 空間の性能を理解 ⑤. 計画の技法を理解						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	正確に空間形態の理解	適切に空間形態の理解	適切に空間形態の理解できない			
評価項目2	正確に知覚現象の理解	適切に知覚現象の理解	適切に知覚現象の理解できない			
評価項目3	正確に寸法と規模の計画を理解	適切に寸法と規模の計画を理解	適切に寸法と規模の計画を理解できない			
評価項目4	正確に空間の性能を理解	適切に空間の性能を理解	適切に空間の性能を理解できない			
評価項目5	正確に計画の技法を理解	適切に計画の技法を理解	適切に計画の技法を理解できない			
学科の到達目標項目との関係						
(B)						
教育方法等						
概要	建築計画は、人々の活動に適した機能的な器としての建築を成立させることにある。快適性、安全性、利便性、を建築空間として成立させる建築計画の基本を知り、建築物として実現する方法を知ることとする。 There is an architectural plan to make the functional architecture. The purpose is to know the method of achieving the comfort, safety, and convenience as a building.					
授業の進め方・方法	基本的に講義形式で授業を行う。 適切な資料を配付する。 スライド等を用いる。					
注意点	評価方法・評価基準 定期試験 (70%)、演習課題等 (30%) により総合評価を行う。空間、知覚現象、各部の寸法、空間の機能、空間構成手法の理解についての到達度を評価基準とする。 学生へのメッセージ 住宅や学校など身近な建築空間の大きさや、使いやすさなどを日々観察するように。 教員の連絡先 研究室 A-306 内線電話 8963 e-mail onoe@maizuru-ct.ac.jp					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明、建築計画における空間の形態1	①. 空間形態の理解		
		2週	建築計画における空間の形態2	①. 空間形態の理解		
		3週	人間工学的寸法 (人間の知覚と行動) 1	②. 知覚現象の理解		
		4週	人間工学的寸法 (人間の知覚と行動) 2	②. 知覚現象の理解		
		5週	寸法1モジュール (寸法と規模の計画) 1	③. 寸法と規模の計画を理解		
		6週	寸法2モジュール (寸法と規模の計画) 2	③. 寸法と規模の計画を理解		
		7週	寸法3演習課題 (1)	③. 寸法と規模の計画を理解		
		8週	中間試験	①. 空間形態の理解 ②. 知覚現象の理解 ③. 寸法と規模の計画を理解		
	2ndQ	9週	試験解答、到達度確認	①. 空間形態の理解 ②. 知覚現象の理解 ③. 寸法と規模の計画を理解		
		10週	空間の性能1	④. 空間の性能を理解		
		11週	空間の性能2	④. 空間の性能を理解		
		12週	空間構成 (計画の技法) 1	⑤. 計画の技法を理解		
		13週	空間構成 (計画の技法) 2	⑤. 計画の技法を理解		
		14週	外部空間の構成	⑤. 計画の技法を理解		
		15週	学習のまとめ	⑤. 計画の技法を理解		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	構造	木構造の特徴・構造形式について説明できる。	1	前2
				S造の特徴・構造形式について説明できる。	1	前2
				鉄筋コンクリート造(ラーメン構造、壁式構造、プレストレストコンクリート構造など)の特徴・構造形式について説明できる。	1	前2
			環境・設備	風土と建築について説明できる。	1	前1
				環境共生建築について理解している。	1	前1

			計画・歴史	表色系について説明できる。	1	前3
				色彩計画の概念を知っている。	1	前3
				省エネルギー(コジェネレーション等を含む)について説明できる。	1	前10
				維持管理について理解している。	1	前10
			計画・歴史	モジュールについて説明できる。	1	前5,前7,前8,前9
				建築設計に関わる基本的な家具をはじめとする住設備機器などの寸法を知っている。	1	前6,前7,前8,前9
				居住系施設(例えば、独立住宅、集合住宅など)の計画について説明できる。	1	前15
				建築計画・設計の手法一般について説明できる。	1	前12
				計画の立案ができる。	1	前13
				企画の手法について理解できる。	1	前14
				動線について説明できる。	1	前10
				ゾーニングについて説明できる。	1	前11
				地域資源(たとえば、指定・登録文化財、伝建制度・地区、観光資源、特産物など)について説明できる。	1	前2
			地域資源の保存・再生(たとえば、リノベーション、コンバージョンなど)手法について理解している。	1	前11	
			美術・デザイン	建築の構成要素(形と空間の構成)について説明できる。	1	前1,前2,前3,前4,前8,前9
建築における形態(ものの形)について説明できる。	1	前2,前3,前4,前8,前9				

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0